

日本原子力学会 倫理委員会 (第 106 回)

議事要旨

1. 日 時 : 2018 年 9 月 7 日 (金) 9:30~12:10
2. 場 所 : 岡山大学津島キャンパス 一般教養棟 D 棟 2 階 D24 (原子力学会秋の大会会場内)
3. 出席者 : 大場委員長、三村副委員長、神谷幹事、伊藤委員、宇奈手委員、金山委員、菅原委員、出町委員、中野委員、中村委員 (委員 15 名中 10 名出席)
中島特別員、土田特別委員、布目特別委員、北村オブザーバー

4. 資 料 :

- 倫 106-1 : 日本原子力学会 倫理委員会 (第 105 回) 議事要旨(案)
- 倫 106-2-1 : 企画セッションと研究会の中長期運営について
- 倫 106-2-2 : 倫理委員会役割分担表
- 倫 106-3 : 倫理委員会 2018 年秋の年会 企画セッションに係る企画・準備について (案)
- 倫 106-4 : 第 22 回倫理研究会の準備等について
- 倫 106-5 : 2019 年春の年会 (茨城大学) 倫理セッションテーマ案
- 倫 106-6 : 倫理委員会規程等の改定について
- 倫 106-7 : 「日本原子力学会誌」記事提案書

5. 議事概要 :

(0) 新たに就任された土田特別委員と、中島特別委員からのご挨拶があった。

(1) 前回議事録の確認

神谷幹事から資料 106-1 に基づき前回議事要旨 (案) について説明があり、特にコメントはなく、了承された。

(2) 倫理委員会の中長期運営等について

三村副委員長から資料 106-2-1 及び 106-2-2 に基づき倫理委員会の中長期運営計画と役割分担について説明があり、議論を行った。

- ・倫理委員会の開催実績・予定を修正する。
- ・「メーカ不正事例などに鑑みた倫理規程の見直し検討」は、検討期間を 2019 年度までに延伸する。
- ・「破碎帯活動性評価編に対する検討」の発信についてはホールドとしてきているが、学会誌への活動報告の中で取り扱うか、検討していく。
- ・技術倫理協議会の今後のシンポジウム等について、中野委員から紹介があった。
- ・学会 60 周年学会誌特集号への記事投稿について、大場委員長から検討状況について紹介があった。
- ・役割分担表のうち、学会誌掲載その 2 の主担当と副担当の表記を修正する。
- ・2019 年秋の大会企画セッションの担当は、主を菅原委員とし、副を原田委員の後継の委員にお願いしていくこととする。

- ・大場委員長から「ミニ講演会」の趣旨について補足説明があり、今後の委員会で特別委員に適宜お願いしていくこととした。

(3) 2018 年秋の大会企画セッションについて

伊藤委員から資料 106-3 に基づき説明があり、総合討論の進め方等について確認を行った。

- ・ JAEA の安全文化に偏ることなく、研究機関の安全文化について議論する。
- ・そもそも研究機関の安全文化とは何か、何をすればよいのか等に焦点を当てた議論ができるように進めていく。

(4) 第 22 回倫理研究会について

金山委員から資料 106-4 に基づき準備状況等について説明があり、確認を行った。

- ・ パネルディスカッションの登壇者を中心に、当日 11:45 頃から昼食を共にしての最終的な打合せができるように調整する。その場合、午前中に予定している倫理委員会は 11:30 までとする。
- ・ パネルディスカッション前の質問票の回収は、神谷幹事と菅原委員が担当する。
- ・ 各委員はそれぞれの所属あるいは関係する組織内に案内を周知し、参加者を広く募っていくこととする。前回倫理研究会の登壇者の方には大場委員長から案内をする。
- ・ 参加申込みされた方のメアドを次の倫理研究会の際に活用することについて議論を行った。個人情報であり、これまで各回限りの扱いとしており、前回 2 月の研究会の参加者の方に案内することはできない。今回の受付時に、参加者に次回の案内をお送りするためにメアドを活用してよいかの確認をし、その上で次回の案内に活用していくこととした。次回の案内時には、今後の倫理研究会の案内に活用することの可否を確認できる形での案内文を検討していくこととする。

(5) 2019 年春の年会企画セッションについて

三村副委員長から資料 106-5 に基づき説明があり、企画セッションのテーマについて議論を行った。議論を踏まえて、品質不正問題をテーマとする方向で内容を深めて、引き続き検討していくこととした。

- ・ 原子力防災については他の企画セッションで取り上げることが検討されている旨の紹介があった。
- ・ 倫理規程の改定検討の参考となるようなテーマにするのがよい。
- ・ 昨秋以降のメーカーによる品質不正問題について議論を継続して 1 年が経過するので、次の春の年会で取り上げて議論してもよいのではないかと。
- ・ 不正が起こらないようにどうするかをポジティブな観点から研究している人の話を聞けるとよいのではないかと。
- ・ 内部告発などをフォローしてきているメディア関係者も候補に挙げられる。
- ・ 今週の台風 21 号や北海道での地震による災害から得られる教訓などを題材に考えることはできないかと。

(6) 倫理委員会規程等の改定について

神谷幹事から資料 106-6 に基づき、本件の経緯、倫理委員会規程と同運営細則の改定案が説

明され、議論を行った。議論を踏まえ、引き続き検討していくこととした。

＜規程第2条の委員会の任務関連＞

- ・「倫理問題に関する意見の表明」に関して、過去の表明実績やフォローアップなどについて紹介があった。
- ・「倫理問題に関する意見の表明」の任務は重たいものであり、過去の経緯も踏まえて、現在の理事会の認識、別途広報情報委員会で検討が進められているポジションステートメントの扱いなどとの関連も含めて確認していく必要があるのではないか。

＜運営細則改定案第3条の委員の責務関連＞

- ・第2項に「委員会の役割」を明記することは倫理委員会としては重要なことと思う。
- ・現案の(1)にある「倫理規程制定の基本精神」について、「基本精神」とは何か、何を指すのかは明確にしておく必要がある。

(7) その他

- ・時間の都合で、資料106-7については次回委員会以降、具体的に検討を進めていくこととする。
- ・三村副委員長から、日本学術振興会先導的研究開発委員会「未来の原子力技術」第7回委員会での議論について紹介があった。

6. 次回：第107回

日時 2018年9月21日（金）9:30～12:00 （第22回倫理研究会の午前中）

場所 東京大学本郷キャンパス工学部8号館5階510号室

以上